

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症予防接種の説明

接種対象年齢 (無料で受けられる年齢)	小学6年から高校1年に相当する年齢の女子
望ましい接種年齢	中学1年に相当する年齢
ワクチンの種類	不活化ワクチン（9価・シルガード9） 〔予防できるHPVの型〕 HPV6・11・16・18・31・33・45・52・58型 〔予防できる病気〕 子宮頸がん、尖圭コンジローマ ※ヒトパピローマウイルス(HPV)には、多くの種類があります。予防接種だけで全ての子宮頸がん及びその前がん病変などを防ぐことはできません。また、すでに感染しているウイルスを排除したり、発症しているがんの進行を遅らせたり、治療することはできません。
予防する病気	<p><子宮頸がん> 子宮の入り口(頸部)にできるがんで、日本では年間約10,000人以上の女性が新たに子宮頸がんと診断されます。ほとんどはHPVの感染が原因で発症することが解明されています。このウイルスは主に性交渉で感染し、女性の約8割が生涯に一度は感染するといわれています。感染しても大部分は自然に排除されますが、まれに持続的に感染することがあり、5年から10年以上を経て一部ががんの発症につながります。子宮頸がんは20~30歳代で急増しています。ウイルスに感染している可能性が低い10代前半にワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。</p> <p><尖圭コンジローマ> HPVの感染が原因で、外陰部にイボのようなものができる病気です。主に性交渉によって感染し、自覚症状はあまりありません。ほとんどの場合、悪性化することはありませんが、まれに、悪性化する可能性もあるため、経過観察が必要な場合もあります。性感染症の中でも、近年は増加傾向にあります。</p>
接種回数 一般的なスケジュール	<p>6か月間に計2~3回 ★接種を希望の方は対象年齢以内に2~3回の接種が終わるよう早めに接種しましょう。 ★1回目の接種を15歳の誕生日前日までに受けた場合は、2回の接種で完了できます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>※1 1回目と2回目の接種は、通常5か月以上あけます。 5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。</p> <p>※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。</p> </div>
実施時期	年間通して実施
実施場所	個別予防接種実施医療機関
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省のホームページにあるHPVワクチンの資料も参考にしてください。 接種後の血管迷走神経反射として失神が現れることがあります。失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後30分程度体重を預けられるような場所で座らせるなど、なるべく立ち上がらないようにしましょう。 保護者が同伴しないで、13歳以上のお子様1人で予防接種を受ける場合はあらかじめ同意書(予診票裏面)と予診票の2箇所保護者の署名が必要です。 ワクチンで防ぎきれなかったがんを早期に発見し、治療するためには、子宮頸がん検診が必要です。20歳を過ぎたら定期的にがん検診を受けましょう。 接種の際は、必ず母子健康手帳をご持参ください。
副反応	<p>ワクチン接種後に血管迷走神経反射による失神が現れることがあるので、注意事項を守りましょう。</p> <p><9価・シルガード9>国内臨床試験において、局所症状は疼痛88.1%、腫脹38.2%、紅斑32.5%、そう痒感9.4%、出血3.1%でした。また、全身性の副反応は頭痛3.9%、発熱3.1%、悪心2.4%に認められました。</p>
備考	<p>各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。</p> <p>必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。</p>

予防接種を受けに行く前に

予防接種に行く前のチェック

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応など理解していますか。わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。
- 母子健康手帳は持ちましたか。
- 予診票の記入は済みましたか。

1. 接種を受ける前に

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医や佐賀市健康づくり課にご相談ください。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- (1) 当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。
予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。
- (2) 受ける予定の予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- (3) 「母子健康手帳」を必ず持っていきましょう。
- (4) 予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- (5) 予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

2. 接種を受けた後

- (1) 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- (2) 接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位を清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 当日ははげしい運動は避けましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

【お問合せ先】

佐賀市役所 健康づくり課 予防接種係

0952-40-7279